

切迫する
第一波ストへの

重大不当処分策動に断固反撃を

2月線見実力阻止から3月ダイ改阻止 第二波ストへ

日刊
勤労千葉

86. 1. 21
No. 2144

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

当局は、近々にも第一波ストライキに対する重大不当処分を強行しようとしている。先週以来、本社は厳戒体制に突入し、千鉄局も金網で局舎を囲い、二十日からは、出入の厳重チェック体制をしいている。まさに、処分がいかに理不尽かつ凶暴なものであるのか、当局が労働者・人民の怒りをいかに恐れているかを如実に示すものだ。全支部・全組合員は、満心に怒りをたぎらせ、直ちに不当処分策動粉碎の闘争体制に突入せよ。

業務移管とセットにした不当処分を許すな

われわれは「スト参加者は解雇」なる前代未聞の恫喝、一万の機動隊等の弾圧をはねのけ、一人の脱落者もなく、断固ストライキを貫徹した。

この決起は「労働者は脅せば屈服する」と労働者をあなどり、見下していた政府・当局のど肝をぬくものであった。

そればかりか、スト終了後「参加者全員解雇」「直ちに嚴重処分」なる錯乱した当局の攻撃に対しても、年末・年始を返上して闘う決意と体制を堅持しぬくことを通し、当局を追いつめ、年内不当処分策動を粉碎してきた。

「処分や恫喝だけでは勤労千葉はつぶせない」ことを自覚した当局は、今度は不当処分と業務移管をセットにした組織破壊にうつてでてきている。

こんな理不尽なやり方にだれが屈服するか。どうして許せるか。

三月闘争こそ、十万人首切り阻止の最大のカナメ

すでに明らかかなように、政府・当局はこの二・三月に勝負をかけてきている。

三塚を運輸大臣にすえ、国労をはじめとする五労組との「話し合い」労組の骨ズキをはかり、かつ、動労革マル松崎・鉄労らとつるんだ「労使共同宣言」を発する等は、十万人首切りの具体的攻撃である「61・3」をストなしで強行し、既成事実をつくりあげ、労働者の闘う心を

くじき「61・11」→「62・4」へ一気に突き進もうという凶暴な意図に満ち満ちている。

まさに、そのためにこそ、業務移管とセットにした重大不当処分を闘う勤労千葉を叩きつぶそうというのである。

敵は、われわれの第一波ストの成果とせよ！その全国鉄労働者への波及に恐れをなしているがゆえに、第二波を何としても喰い止めようとしているのである。そうはゆくか。

第二波ストで反撃を

全支部は、直ちに所定方針通り、不当処分策動粉碎の体制に突入せよ。

われわれは、いかなる処分も断じて許さない。全組合員の手で第一波闘争を闘いぬいた仲間をつつみ守りきろう。通告書の受け取り拒否・職場集会・区長抗議行動を手はじめに、権力と一体となった弾圧体制をはねのけ、あらゆる手段で反処分の闘争に起とう。

処分で労働者の魂を奪うことができないことを政府・当局にトコトン思い知らせてやろう。

不当処分粉碎・「分割・民営化」十万人首切り阻止・「61・3ダイ改」一検修合理化粉碎

・「61・3」一検修合理化粉碎
・「3ダイ改」一検修合理化粉碎
・事業移管阻止・運転保安確立
・国鉄関連法案上提反対を掲げ、断固第二波ストライキに決起しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！